

1 番 和 田

改めまして、おはようございます。

それでは、早速一般質問をさせていただきます。

受付番号1号、質問議員1番、和田成功。

件名、「一貫教育・保育の更なる深化を」。

当町では、令和4年2月に、「0歳から15歳までの一貫教育保育」基本方針を策定し、「社会の中で、他者とよりよく関わりながら、自分らしく生きることができる人間力と社会力の育成」を目指し、年齢や発達段階に応じた連携交流をさらに活性化させ、生活や学びの連続性を重視した教育・保育の推進に取り組んできている。そのような中、山北ならではの特色を生かした施策となれば、子育て世帯等の移住定住にもつながると期待している。

そこで、これまでの実績や課題を検証し、今後の方針について町の姿勢を問う。

1. 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の取組状況は。また今後の取組は。

2. やまきた児童クラブの運営状況について、どのように捉えているのか。

3. 少子化対策としても期待される今後の子育て支援への取組は。以上。

議

長

答弁願います。

町長。

町

長

それでは、和田成功議員から「一貫教育・保育の更なる深化について」の御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「0歳から15歳までの一貫教育・保育の取組状況は。またその後の取組について」であります。山北町では、令和4年2月に「0歳から15歳までの一貫教育・保育」基本方針を策定し、「社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることができる人間力と社会力の育成」を目指して保育・教育を進めております。

令和5年度と6年度の2年間で子どもの育ちと学びのつながりを意識した質の高い教育・保育の実施を目指し、山北が進む特色を生かした10分野の一貫教育・保育のモデルカリキュラムを編成いたしました。

これまでの取組を通じて、園児・児童・生徒間の交流や教職員の異校種間体験も充実してきました。園児と小学生による泥んこ遊びや、中学生による保育実習など、それぞれの発達段階に応じた狙いを共

有し実践しています。

教職員については、体験研修により、お互いの教育・保育についての理解が広がってきました。こうした実践により、園児は自分の知っている先生やお兄さんお姉さんがいる安心感を持ち入学し、学校生活になじんでいます。小学生にとっても新入生を気にかけて声かけをしたり、休み時間に一緒に遊んだり、中学生も様々な場面で自覚ある行動の言動が見られるなど、相手を思いやることや粘り強く挑戦するといった非認知能力の育ちが見られ、貴重な学びの場となっています。

今後の取組としては、カリキュラムが出来上がり、それを基に各園・学校の実態に応じて実施しているところです。

「一貫教育・保育」は、教育・保育施設が全て公立であり、長年取り組んできた異校種間の連携があった山北町などの特色を生かした施策であります。この実践により、「社会の中で他者とよりよく関わりながら自分らしく生きることができる人間力と社会力」を山北町の子どもたちが身につけ、社会の中で活躍していけるよう、PDCAサイクルを展開し、目指す子ども像の具現化に向けて取り組んでまいります。

次に、2点目の「やまきた児童クラブの運営状況についてどのように捉えているか」についてであります。やまきた児童クラブは、児童福祉法第6条の3に基づく放課後児童健全育成事業であり、令和3年10月から業務を民間に委託しております。令和7年4月の開所状況については、利用登録者数138人、開所日数25日、延べ利用人数1,459人で、1日当たりの平均利用者数は58人となっています。

この事業の目的は、発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるよう当該児童の自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等により、児童の健全な育成を図ることとしております。学年の枠を超えた様々な体験の機会等を充実させて、子どもの遊びや生活の場を豊かにしてまいります。

令和5年度に実施した保護者へのアンケートで、児童クラブの活動として、「工作」や「運動系」、「外国語・国際交流」を要望する回答が見られましたので、「黒板アート」「折り紙教室」「モルック」などイベントを実施しており、今年度は外国語、国際交流の活動について方法や内容を準備しているところです。

また、令和6年度のアンケートでも、児童クラブ全般の印象として、88%の方が満足、もしくは、おおむね満足との回答をいただいております。

ます。

今後も利用者の要望などを聞きながら、子どもたちにとってよりよい時間となるよう取り組んでいるものと考えておりますが、一人一人の意見を大切にして、事業者と十分に連携を図ってまいります。

次に、3点目の御質問の「少子化対策としても期待される今後の子育て支援の取組は」についてであります。本町では、昨年度の出生数の落ち込みを受け、昨年8月に若手職員を中心とした「出産・子育て応援プロジェクトチーム」を立ち上げ、出生数の増加や子育て世代の転入増加、子育てしやすい環境づくりを目指して、出産・子育て支援に関する26件の提案を取りまとめました。昨年11月に提案があった17件のうち9件は、令和7年度当初予算に反映いたしました。

プロジェクトチームからの提案事項は継続的に検討し、子育て支援施策の全体調整を行うために、「出産・子育て支援施策推進会議」を立ち上げました。この会議は、提案事項に関する全体調整と、中・長期的な視点での子育て支援を主な役割としております。

なお、この会議はあくまでも庁内の会議体ですので、子育て世代の保護者や園・学校関係者、地域住民など外部委員で構成されます。「山北町子ども・子育て会議」と密接に連携し、子育てに関わる委員の方々からの意見や提言をいただき、町の取組を積極的に反映することで、出産・子育て支援のみならず、教育・保育事業を含めて、妊娠期から子育て期の幅広い施策により、出生数の増加をはじめ、子育て環境や教育環境の充実につながるよう取り組んでまいります。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

それでは、早速再質問に移りたいと思います。

回答のほうであったかと思うのですが、0歳から15歳までの一貫教育・保育、これ私何度も質問させていただいております。それだけすてきな事業なのか施策なのか、山北の特色を生かして素晴らしい事業といいますか、一貫教育・保育、ここを進めていければ、次代を担う子どもたちや、また、移住・定住等を考えられている子育て世代にも大きく影響というか、寄与してくるものだと信じて再三質問させていただいておりますけど、開始から3年たちました。回答の中にも、PDCAサイクルを展開して、いろいろやられているようですが、その中で1点、カリキュラムの調整透化についてですけれど、年齢ごとの発達段階に適した内容を柔軟に組み合わせる必要があると考えますが、その辺の対応について、今の取組状況はどうなっているのでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。

ただいまの和田議員の御質問にお答えいたします。

山北町のカリキュラムについては、0歳から15歳までの一貫教育・保育ということの中で進めてきているわけですが、今御指摘のありました発達段階に応じての取組ですが、これは当然、山北町の場合には、こども園、保育園、それから岸幼稚園の3園の部分の支援、保育ですね。こちらの部分と、それから小・中学校のほうの教育があるわけですが、それぞれの段階で、やはり一番大事にしてるのは、これが行われた当初、どういうところがポイントかといいますと、やはり子どもたちがスムーズな、中学生を卒業するまでの段階で、山北の教育・保育を受けながら学んでいく、そういう姿勢がつかれるという。特にそれがベースとしてあるのは、全てが公立で行われるというところでは、その連携であるとか、協力が密にできるというところがメリットかなというふうに思っています。それぞれの段階では、取組も先ほど町長からも話があったとおり、子どもたちがまず安心してそこに行ける。知ってる人がいる。知ってる先生がいる。知ってるお友達がいる。先輩がいる。そういう中で、園児は安心して小・中学校の門をたたいていったり、また小学生についても同じメンバーが基本的に中学校に進んでいく。そういう中で学ぶことができるというところの安心感があるわけです。

ただ、先ほども御指摘があったとおり、スムーズに持つていくためには、そこには先生方、教職員の、そこに子どもたちに対する細かな配慮、そういうものもなければいけません。特に児童指導であるとか生徒指導、そういう関係性です。学力の部分と同時に人間性の部分、そういうところも踏まえて子どもたちが安心して進められるように情報交換、こういうものも密にしながら取り組んでいる。今の段階ではそういうようなカリキュラムの中に位置づけをしながら、子どもたちを見守っているところです。

以上です。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

連携といったところと、小学校に上がって、園から上がるときに、確かに、以前はちょっと分からないですけど、今、本当にスムーズに園から小学校へ行っているところは目の当たりにしてるのかなといったところと。令和6年度ですか。以前から園と小学校とのつながりといったところは幾度か拝見しているんですけど、今度3園、幼稚園、保育園、こども園、ここの連携というところも、交流というんですか、

そういったところも令和6年度はやられていたようですし、そういった横にも縦にも切れ目のない、そういった取組は、やはり全部の園、学校が公立だといったところ、そこがポイントで、連携が取りやすいのかなといったところで、長年ほかの、以前から取り組んでいる部分もあるかと思うんですけど、そこをしっかりと継続していただいで、小学校から中学校へのつながりもスムーズにいつているように見えますし、こちら、山北教育委員会だよりですか、第92号にもあるように、中学校の運動会の体育祭の練習に、向原保育園の園児が応援に行っているとか、こういう園と中学校のつながり、こういったこともやはり連携というか異年齢の交流といったところがすてきな取組なのかなというふうに考えますので、その辺もしっかり今後も取り組んでいただきたいといったところと。もう一つ、時代とともに、多様性といいますか、そういったところがある中で、子ども一人一人の個性や、多様な学びのスタイル、ここに今の教育環境、その辺が十分対応できているのか。対応できていないのであれば、その辺を対応をしていく必要がある。その辺についてはいかがな取組をされているのか、御説明願います。

議 長
教 育 長

教育長。

御質問について、お答えできるかと思えますけれども、ちょっと考えを述べさせていただきます。

今の多様性の部分、これについては、やはり山北町も今インバウンドの時代、外国籍のお子さんも、町内の学校には通われているお子さんもいます。

様々な多様性の部分、そういうものも踏まえて、先生方におかれましても、そういう部分での情報交換、それから研修、そういうスタイルの中でどういうふうに関わっていったらよいのか。そういう一般的な部分での関わりと同時に、山北の子どもたち、山北に住んでいる外国籍のお子さんも含めて、やっぱりその子の特徴であるとか今後の支援、それから指導に踏まえての取組も、一人で、担任だけが考えるのではなく、幅広い関係、場合によっては福祉であるとか、いろいろなところの情報もいただかなければいけなくなると思えますし、そういう面では、その辺の情報を教育委員会としてもバックアップしながら取り組んでいきたい、そういうふうに考えております。

以上です。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

その辺は、今後もしっかりと取り組んでいただきたいとい

ったところと。あと、もう一点、保護者とか地域との連携、園とか学校との連携というのは今まで説明していただいたところで大体理解できるんですけど、その辺の各家庭と学校ないし園との連携、ここの強化も必要であると。また、山北の特色を生かすのであれば、地域との連携、ここも密に強化していかなければいけないのかな。その辺がちよっと見えにくいのかなといったところで、現状の取組状況、または今後取り組んでいくその方針というんですかね、その辺をお答えいただければと思います。

議 長
教 育 長

教育長。

再度の質問ありがとうございます。地域連携という部分でお答えいたします。

山北の子どもたち、本当に園、小・中学校へ行っても話を聞くのは地域との連携の濃さ、こういうものを非常に感じております。特に園のほうについては、毎年お寺さんであるとか、様々な地域の方々の御協力をいただけて。この間も梅もぎであるとか、様々な取組。それから地域で言えば、これ議員も御存じのとおり、シイタケの栽培、物を育てたり、そういうものの中で、地域の方々の協力を得て、なおかつ地域と同時に、小学生との連携という部分では田植の作業、そういうものも含めて、こういうふうにやっていくんだなというものを、身近な人たち、身近な方々とのふれあいの中で、子どもたちは学んでいる、そういうものがあるかと思えます。

これは、またちよっと話が変わってきますけれども、今ちょうど田植が終わりまして、地域の中には田んぼが、水が入って、そういうものも関わっているわけなんですけれども、これは園のほうにいる子どもたちに学びとして非常に厳しい部分もあるかと思うんですが、小学校の社会科の授業の中で、田んぼで働くおじさんの学習、そういうものを通して、例えば田んぼの水の取入口ありますよね。そういうところに板が入っている。つい、子どもですから面白がって抜けてしまったりとか、そういう遊びを、いたずらをするわけなんですけれども、ただ、やはり、それが駄目だと教える。そういうことを教えるのではなく、地域の方々がその水を入れたり出したりすることによってお米が育っていくんだと。そういうものを丁寧に学習の中で、または保育の中で身近に見ながら感じることによって、子どもたちの中に、そういうものは自分たちのほうからやっちゃいけないことなんだということが理解できるような。私は、教育の専門としてはそういうところも含めて、ただ、やってはいいのかいけないのかという言葉だけ

ではなく、その背景にあるものを学ばせていきたい。それが、やはりこの0歳から15歳までの一貫教育・保育の中にも含まれてるかと思えます。

以上です。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

そうですね。今、回答にもありましたけど、田植だったり収穫だったり、シイタケの菌打ちですか、そういったものもやられてるといったところで、山北ならではの特色を生かしてる部分というのはあると思います。

先日も、こども園の園児ですか、泥んこで田んぼから帰ってきて、みんな泥だらけになってたって。昔なら普通の光景なのかもしれないですけど、今の時代、なかなかそういう機会も少ないので、山北の特色を生かしてやられているのかなといったところが見受けられますし、多分、今日この時間、川村小学校の2年生、商店街に授業の一環で来ていることも聞いておりますし、そういったところで地域とが密着していく、山北ならではの地域と密着していく。連携というか、してるというのは見て分かります。ただ、それ以上に、プラスアルファというんですかね、山北の地域なら、もっともつとすてきなことができるんじゃないかと。もっと児童・生徒、園児等にすてきな体験がさせてあげることが地域の協力が得られれば、できるのかなといったところで、その辺はしっかりと積極的に進めていっていただきたいなと思えます。その部分について、いま一度御答弁いただければと思います。

議 長
教 育 長

教育長。

現在でも山北の魅力、本当にたくさんあるというふうに感じております。ただ、それをどう生かすかというところは、やはりこれ、我々大人サイドが担う部分が多々あるかと思えます。

ただ、私自身一つには、これから先、課題にもなっている、例えば文化財の信仰であるとか、そういうものについても、地域の山北をやっぴりまず子どもたちにはよく知ってもらおう。これが一つ大事なポイントだと思います。

山北の魅力。要するに、当然そこにはメリット・デメリット、プラス面もあればマイナス面もあるかと思いますが、やはりその両面を学びながら、なおかつ、その中から山北の魅力、そういうものが我々大人もそうなんですけども、子どもたちにも知っていただきながら、さらにそこから課題が当然出てくるだろうと思えます。これに

については、子ども議会であるとか、中学生の提言であるとか、またはこれは高校生、山北高校からも提言いただけるところが多々あるかと思いますが、そういう部分も含めて、これからの山北の魅力の学び、それから理解し、それをどう発信するか、そういう方向につなげられればというふうなことをちょっと感じております。

以上です。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

魅力あふれる山北町の特色を生かしてといったところで、たまたま先日私、子どもと一緒に、山北町カヌー体験教室というところに参加させていただきました。本当にすてきで、カヌー楽しかったなって子どもも大喜びでした。町外のお子さんや保護者の方も参加されていたようですが、これって、湖面を利用してカヌー体験、もしくはSUP体験と違って山北ならではののかなって。山北の児童や生徒がカヌーに乗ったことあるんだよ、SUP乗ったことあるんだよというふうなことが、将来よそに出て話をしたときに、やったことあるんだよ、山北ならできるんだよとかというと、その関係人口、交流人口だったり地域活性化にもつながるといったところで。どうですか、カヌー体験。小学生、中学生、SUP等を含めて、そういうのも、何か山北の特色だなと。なおかつ、丹沢湖ですよ。緑と水。すてきじゃないですか。いかがでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。

ありがとうございます。

かつて三保小学校があったときには、三保小学校の子どもたち、たしか身近なところで、そういう利用、カヌー体験ですか。何かクラブもあったということは聞いております。そういう部分で、できないことではないのかなとは思いますが、何分、今度は山北、御承知のとおり、一小一中、ここの位置から考えたとして、それができるかどうか。これからまたそういうことの中で子どもたちの興味関心もありますし、まずは先ほど議員が行かれたような、町でもそういう体験コーナーをつくっていますので、そういうところからまず興味を持ってもらうということは大事ななというふうに考えております。

以上です。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

前向きな回答だと信じておりますけれど、カヌー体験のみならずなんですけど、山北カヌーマラソンを毎年やられている、そういったところで、やっぱり町民がカヌーに親しむということは大事なこと

なのかなといったところで、体験して本当にすてきな体験教室だったなと思うんです。ましてやカヌーマラソン、今度7月ですか、やられますけど、そういったところで、体験教室が年1回、もうちょっと増やしたりという、通告からちょっと離れてはしまうんですけど、そういったところでやはりカヌーを体験している児童・生徒といったところも含めて、町民がそういったところの体験って必要なのかな。町としても、カヌーやSUPの体験というのももう少し積極的にというのは、教育長に答えを求めてもあれなので、町長、その辺についてはいかがでしょう。

議
町

長
長

町長。

カヌーマラソンもSUPも、毎年たくさんの方に参加していただいておりますけれども、当然山北にお住まいの方が経験していただくということが非常に大事だというふうに思っています。

実際にやらないと、難しいのかやさしいのか、なかなか分からないというところがありますので。私もSUPを初めて乗ったときには何回も落ちました。そういったところを見ると、逆に小さな子どもは全然落ちないのね。もうぼんぼん初心者でもそのぐらい簡単にこなしてしまうということで、やはりそういったような年代別とかいろいろなことでもありますけども、できるだけ山北町で関係している方がやはりカヌーとかSUPを一度は経験していただいて、それを自分の体験として第三者に発信していただければ大変ありがたいというふうに思っておりますので、これからもそういったようなこと、山北町ならではの特色を生かしていきたいというふうに考えております。

議

長

和田成功議員。

1 番 和 田

ちょっと脱線しちゃっているんですけど、カヌーとかSUPなんて、本当に生涯スポーツというんですかね、長い、本当に切れ目のない、0から15までじゃなくて、もう一生涯の続くようなスポーツというんですかね、そういった活動というのはすてきなのかな。本当に湖面利用等を通じて、日本の地域活性化にもつながっていくのかな。実際、土曜日の駐車場は満車でした。違うところのナンバーの方がSUPを持ってきてやってたりとかといったところがあるんで、その辺も地域活性化に一つ役立てるような何か。その辺を今後考えていただければ。すみません。通告外で申し訳ございません。じゃあ本題に戻ります。

次が、教育のほうです。

ICTといったところも少し時代とともにといったところなんですけど、活用されているとGIGAスクール構想で一人1台パソコンといったところですけども、中学校の状況ですか、大分傷みが激しく、数台修理待ちだと。予算の都合上、なかなか修理が順番待ちといますか、その辺はもう少し柔軟に対応していただければなというふうに考えますけど、その辺について現状と、今後についていかがでしょうか。

議 長
こども教育課長

こども教育課長。

小・中学校の一人1台パソコンの関係になります。小・中学校に一人1台のパソコンにつきましては、令和2年、3年の2か年で整備をいたしました。

その後、落としてしまって画面が割れてしまったとか、そういった故障に対しましては、その都度予算の範囲内で対応のほうをさせていただいております。最近の状況ですと、当然故障というのもありますし、購入から大分日にちというか年数がたってきましたので、機械自体の故障というのも増えている状況でございます。ただその都度、予算の範囲内で修理はさせていただいておりますが、台数が少し多くなってきておりますので、すぐに対応できないというふうな状況が最近は見られております。

ただ、予備機が数台、各学校にはございますので、この予備機で対応ということで、現在のところは不自由なく事業、学習をいただいている状況でございます。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

私の認識とはちょっとずれてるかなといったところはあるんですけど、その辺は予算も絡んでくることですけど、子どもたちの教育環境といったところで、なるべくその辺は柔軟に対応していただければと考えます。

具体的に、一貫教育・保育は今後ここを積極的に進めたい、こういう方針でさらに進化させていきたいなといったところがあれば御説明願います。

議 長
教 育 長

教育長。

ありがとうございます。一貫教育・保育については、今年度の3月に全てのカリキュラムの部分が出来上がって、実践に入ったというところになります。それぞれの科目でいろいろな視点がありますし、今は、まずそのところを一つ一つ実践を通して、当然そこに出てくる成果の部分と同時に課題、そういうものも踏まえて分析をしながら検

討していきたい。今この時点でこれをというところはまだ見当たらないところなんです、正直なところ。今後、その辺のところの取組の中で、やっぱりここをさらに強化していこうとか、またはこの辺についてはもう少し見直していこうとか、そういうようなところで、今後は取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上です。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

今後、柔軟に取り組んでいていただけるのかなと。私が言いたいところは、現場の先生とか、そういった意見をきちっと吸い上げて、現場の意見に重点を置いてしっかりと柔軟に対応していただければ、それが子どもたちに返っていく、よりよい一貫教育・保育になっていくのかなというふうに考えます。

ちょっと時間の都合で、じゃあ次に行かせていただきますけど、やまきた児童クラブの現状についてですけど、回答にもありました。以前よりは本当に落ち着いてるといいますか、そういったところは見受けられます、本当に。この辺が町側と私の意見のずれがあるんで、そこは埋めようがないのかなと思うけど、言い続けていかなきゃいけないのかなといったところで。本当に落ち着いて、ある一定水準というんですか、そこは本当に問題なくクリアされているものだと認識しておりますけど、そこの上に、山北の特色を生かしたプラスアルファの部分、ここを私は以前から言い続けてるんですけど、なかなか町側がいい返事をくれないんですけど、その辺についていかがでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。

やまきた児童クラブのほうについてですけども、現在子どもたちの数がかかなり多く、町民の方々から、やっぱり必要な施設であるという事は伺っております。

基本的には、やっぱり勤めに行かれていますお父さんお母さん、そういう家族の関係で、どうしても子どもを一人で置けないということの中で、現在まで児童クラブのほうに御支援いただいているわけです。その辺のことを考えて、魅力のあるものということで、子どもたちに、じゃあどんなものが魅力なのか、特に放課後の段階になりますから、これも一般の家庭で言えば帰宅してからの動きとは変わらないわけですね。でもその中で、ここでできるとするならば、一つは、そこに集団性があるということ。やっぱり家ではできないような取組。友達であるとか、そういうことの中で関わっていく、そういうも

のもあるだろうし、ただ子どもたちの中には、一人で静かに過ごしたいという子どもも当然いるわけで、そういう子どもたちが同じ場所の環境の中で一緒に過ごす。しばらくの時間の中でですけどね。そうすると、これがいいあれがいいというのはなかなか難しいわけですよ。なおかつ、アンケートでの子どもたちの要望にもありますように、魅力のあるものって言えば、一つにはゲームであるとか、そういうものもあるわけです。当然、放課後の子どもたちの過ごし方の段階ですからそういう部分はある中で、じゃあ何ができるというのは、非常に今の段階もそうですし、また保護者の方々の考えもあらわれるでしょうから、一概にこれがいいあれがいいというわけにはいかない。現状の中ではそういうふうに考えております。

以上です。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

児童クラブは、保護者等が安心して就労できる。子どもを預けておける保育の場という大前提がありますけれど、そこに保育のみならず、山北町の特色を生かしつつ、プラスアルファで学びといったところを、勉強をしろとかという話ではなくて、いろいろな体験等を含めているんなことを学んでほしいなど。ただ、安心・安全に過ごすだけではなくて、いろいろな学びがある。そこにはやはり地域の方が絡んでくる地域連携ということが大事。先ほどの教育のほうでも言いましたけれど、その地域連携、ここをしっかりと進めていく必要があるのかなといったところで、そこが民間業者に委託して、町外事業者なのでなかなか地域の方、もしくは団体等との連携というところはやはり業者としては難しいところがあるのかなっていったところで、行政としてそこら辺を仲介して、うまく地域と児童クラブが連携が強化されるような取組は必要なのか。その辺について取り組む必要があると思うんですけど、いかがでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。

まさに今議員が言われたように、子どもたちにとってやはり魅力のあるものにはしていきたいというふうにはベースとして考えております。これについては、先ほど町長からの答弁にもあったかと思いますが、一つは外国語、要するに言葉の部分で、そういうものも学ぶ機会ということで、子どもたちの令和5年のアンケートにもあったように、工作であるとか運動系であるとか、さらに外国語、国際交流、こういうものがあつたらいいなというような子どもたちの要望もありました。先ほど町長が話されたとおり、今回の場合にはモルック

かな、新たに入れてたり、そういう時間の中で一緒に過ごしながらか、楽しみながらできるものということで進めています。

令和7年度今年度については、先ほども申しましたように、外国語であるとか国際交流につながるようなもの、そういうものも入れながら、山北にあるものを使って還元できればというふうなことは考えております。

以上です。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

今、外国語というような、体験というんですか、回答があったかと思うんですけど、以前も言っているALTの方をたまにとりか、時々派遣して、そこで英語を学ばせろというよりは遊びを通じて外国語に触れるということもすてきな体験になるのかな。予算的に厳しいのかもしれませんが、そういったところも積極的に取り組んでいただけたらなと思いますけど、いかがでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。

先ほども申しましたとおり、ALTの部分については、外国のそういう文化であるとか、どういうものが提供できるか、まだ具体的なところは、これから先になるかと思えますけれども、少し、その辺の方法や内容については準備させていただきたいなと思えますし、やっぱり子どもたちにはいろんな角度からそういうものに触れ親しんでいただくということが大事かなとは思っておりますので、それについては今後も検討をしていきたいなとは思っております。

以上です。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

前向きな回答をいただきましたので期待しておりますので、進めていただきたいと思います。

それで、回答でアンケート調査でおおむね88%ぐらいの方が満足していると。88%は高い水準だと思います。ただ、これでよしとするのか、さらに100%、120%に向けてさらに取り組んでいくのかといったところが、どうなんだろうかねといったところで。答えづらいかもしれないですけど、いま一度、御答弁願います。

議 長
教 育 長

教育長。

確かに、今言われたように100%、これを目指しているわけであって、ただ子どもたちの視点というのは様々あるかと思えます。その施設の中の部分での魅力なのか魅力でないのか、そういうものもあるかと思えますが、回答の中には、こういう部分もあったんですね。こ

こにいるより家に帰りたい。子どもたちの本音の部分かもしれませんが、そこはちょっと定かではないにしてもそういう意見もある中で、やはり全ての子どもたちに満足を提供できるように今後も町としてもしていきたいなと思いますが、やはりその中で子どもたちの考え、そういうものも理解できる場所があります。

ぜひその辺りについては保護者の皆さんとも、また地域の皆さんとも関わりをしながら、今後検討はしていきたいなと思っております。

以上です。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

やまきた児童クラブのところで、環境という施設の話、校舎とともに老朽化の建物ですけど、いろいろエアコンを入れたりという改善はされているというところで、あまり深くいくと、長寿命化の話になって時間がなくなってしまうので、そこは別の機会にと思うんですけど。やはりその環境を整える。先日、児童クラブのほうからメールが来まして、夏休みの児童クラブでは、プールの時間は、熱中症対策というんですかね、ちょっと猛暑日を想定してプールはやりませんというような連絡がありました。その代わり、何かほかのといったところの代替案というんですか。そこは業者が考えることなのか、それとも町と二人三脚でやるのかといったことがちょっと見えないんですけど、その辺の代替案といったところがお示しできれば、説明願いたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

議 長
教 育 長

教育長。

今、御指摘のとおり、プールの部分については今年度は実施しないというような方向で今進んでおります。その代わりということですが、一つには先ほども申しました外国語のALTの方々少し入っていただきながら、そういうものも時間的なカバー、そういうことも一つ考えているということ。それ以外の部分でも、とにかく日中の暑さ、その中でやっぱり最優先は、子どもたちの安全・安心、健康ですから、その辺りもそのプールに入っていれば必ず涼しくなって熱中症が起らないだろうと。そういうこともないわけです。今御承知のとおり、これだけ気温が上がってる中で、夏の炎天下、逆に水の中にも熱中症にはなっている。そういうものの中では、エアコンの中のほうが。個人的には、あまりそういうところで過ごすだけではどうかなとは思いますが、ただ、これはやはり最優先は今言ったように子どもたちの安全、そういうものも考えながらいきたいと思っていま

す。

以上です。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

プールの代わりの時間にALTといったところで、いい、すてきな代替案なのかな。本当に熱中症とかそういったところで、なかなか外で遊ぶ機会が減る。そうしたら体育館って思うんですけど、体育館も本当に、外と同等ぐらいの暑さがあるのかなと。本当に安全って言えないほどの温度に、気温になってしまうのかなといったところで、体育館の改修という話も、また長寿命化になってしまうから別の機会にしますけど、その辺も、しっかり一貫教育・保育の中の全体の中で、施設等の長寿命化ないし改修といったところをしっかりと検討していただければと思います。

時間があれるので、次、最後の少子化対策として期待される子育て支援といったところで、確かにプロジェクトチーム等をつくられてやられていて、昨年11月ですか、17件の提案のうち9件予算に反映されたっていったところですけど、プロジェクトチームから今度違う会議体ですか、山北子ども・子育て会議、ここで協議されていくのかなといったところなんですけれど、今後、具体的なものはこれから提案されるのかと思うんですけど、少子化というか令和6年度、確かに出生数は大分少なかったと思います。

いろいろな子育て支援を今までもされています。近隣ならず全国で見て、山北の子育て支援がそんなに低いというか、積極的じゃないわけではないと思うんですよね。ただ、やるタイミングというんですかね。子どもが少なくなってからやったのではちょっと遅いのかな。以前から言ってるようにもっと早く子育て支援というのをやっていれば令和6年度のような極端に出生数が少ないようなことはなかったのかなと。また先進事例のところに4月に行かせていただいていますけど、やはり10年ぐらいね。そういう取組をした後に、結果として移住・定住につながったり出生率が増えたりといったところなので、継続的にやっていかなきゃいけないという部分があるのかな。そういった中で、提案があって、そこで予算づけをするというのも一つの考え方なのかしれませんけれど、ある程度予算を確保した中で、そこで提案されたものの優先順位をつけながらやっていく、提案されてから予算をつけるのではなく、ある程度の予算確保をしてやっていく必要があるのかなというふうに考えますけど、その辺について町長、いかがでしょうか。

議
町

長 町長。

長 とにかく、少子化対策も含めて、山北町の子育て支援というのが、決して他町に比べて劣ってるということは私は思っておりませんが、しかし、ほかの問題です。例えば交通であるとか、あるいは生活の便利さとか、そういったようなところがほかと比べると若干やはり山北町は課題があるなというふうに思っていますし、またそういうことがあってもなくても実際に山北町に住んでいただいて、子育てをなさる方に、町といたしましては、支援をしていきたいというふうに思っておりますので、そういった中で今、庁内のプロジェクトチームで様々な提案をいただいて、そしてできるものについては、先に短期的なことについてはやらせていただきましたけども、これからは中期・長期的な課題をやっていかなければいけないということで、それについては、当然、財政的なこともありますので、それら優先順位を、皆さんで決めながら、そして、山北町に合った子育て施策を今後続けていきたいというふうに考えております。

議

1 番 和

長 和田成功議員。

和田 ちょっと時間が押してきましたけど、予算的なものというのは確かにあると思います。子育て支援にばかりと思われてしまうかもしれないですけど、やはり次代を担う子どもたちがあって将来があるわけであって、子どもたちって、地域や町の宝という考えでいいと思うんですよね。それで、今の子どもたちを地域や町が、そういったが育てていくという意識で取り組んでいく必要があるのかなと。でなければ山北の将来って見えてこないと思うんですよね。だから予算的に厳しいかもしれないですけど、その辺はしっかりと町長がリーダーシップを取って、予算確保に向かって取り組んでいただければなと思いますけど、改めてその辺いかがでしょうか。

議
町

長 町長。

長 当然、山北町にしかないようなものについては、やっていかなければいけないことがあれば積極的にやっていくということですけど。全体的なこともありますよね。例えば給食費の無償化というようなことはいろいろな自治体でもやってますし、また国のほうでも、そういった考えがございます。そういったようなところも、やはり、どのタイミングでやるべきか、あるいはどの程度やるかというのは、国や県の動向を見ながら、我々としても単独でどうしてもやらなきゃいけないようなことは町の単費でもやらなきゃいけないというふうには思いますけど、全体で皆さんがどこでも考えてるようなことにつ

いては、国の動向、あるいは県の動向を見ながらしっかりと前へ進めていきたいというふうに考えております。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

すっかり給食費無償化を言うのを忘れていたけれど、その辺もすっかり検討、取り組んでいっていただきたいなと思います。

それで、プロジェクトチームからの提案で、町による積極的な用地買収、区画整理、町土地開発公社による空き地購入や区画整理販売、定住・移住される方に宅地ないし住宅といったところがあると思うんですけど、これは町に聞いたほうがいいのか、土地開発公社のほうに聞いたほうがいいのか。その辺について、これすてきな意見だなと思うんですけど、提案だと思うんですけど、いかがでしょうか。

議 長
町 長

町長。

特に、プロジェクトチームから上がってきた中でも、今おっしゃったような、積極的に宅地を買い取ったり、あるいは造成したりというのを町がというような提案で、それ自体はいい提案だというふうに私は思っておりますけど、具体的に、もしそれをやったときに、民間事業者にどの程度の影響が出るかということも考えなきゃいけないというふうに思っています。

ですから、普通の宅地造成であれば、やはり民間業者がもう実際に今、手がけているところもかなりありますからそこは優先されるべきだろうというふうに思っています。当然、行政がやれば、そのところをどうしても安く販売したり、いろいろなことをやるというふうに思いますんで、それがやはり民間をどこまで圧迫するかということも考えなきゃいけませんので、その辺は柔軟に考えていかないと。ここを開発しようと思ったらここと競合してしまう。そうしたときに、業者を優先してこっちが売れ残ったりなんかするのもまた困るし、逆にこっちが定額で出して、一般の業者を圧迫するのは私の本意ではないので、その辺のバランスを考えながらやっていきたいというふうに思っております。

議 長
副 町 長

副町長。

子育て支援施策について、これまでは、それぞれ定住は定住、それから福祉は福祉、それぞれの課で一生懸命考えて取り組んできました。今回プロジェクトチームを立ち上げて実際に予算化と。それは単費でしたので、すぐに対応しなきゃいけないということでいろいろ町長と課と調整したりしながら進めたというところがございます。今年度から子育て会議の意見を伺いながら、今度は推進会議という中で、それ

ぞれの子育てに関わる、例えば都市整備課で公園だとかとか、いろんな子どもたちの関わりのある課があるわけです。それぞれがそれぞれのところでやるのではなくて、一堂に会して、この辺のところは中・長期的にどうしていこうかというところの話合いをして、そして方向性を一つに持っていくんだというところで考えてございますので、今言われた、議員から質問があったようなことも一つ考えられますので、それだけじゃなくて、いろんなことについて協議しながらよりよい形で持っていきたいというふうに考えてございます。

議 長
1 番 和 田

和田成功議員。

副町長の答弁にもあったように、各課がそれぞれやるのではなくて、連携していくことが大事なのかな。先ほどの一貫教育・保育の中でも地域との連携と言わせていただいておりますけれど、やはり庁舎内の連携も必要で、一貫教育・保育を進めることによって、移住・定住に本当につながると思うんです。そのくらいすてきな施策だなと思うんです。

そういった部分で教育・保育の部分ではございますけど、最後に町長、ここをしっかりとやって、移住・定住、明るい未来の山北を想像しながら御回答いただければなと思いますが、いかがでしょうか。

議 長
町 長

町長。

山北町は、とにかく移住・定住も含めて、人口減を何とか止めたいというところで、様々な町の間所得者の、例えば駅前のサンライズであるとかをやってまいりました。やはりあれは数字的に見るとかなり効果はあります。ありますけども、しかし課題もやはりあります。なかなか最初は全員が入居していただきますけど、時間とともに空き室とかいろいろな問題もありますし、またいろいろな移住してきた自体の年数によって、様々な、お子さんもどんどん大きくなりますから、そのたびにいろいろな問題が起こるというようなことがございます。

ですから、そういったような様々な年代に合わせて、町としてもそれらを進化していくというんですか、いろいろなものを組み合わせながら、さらに移住しやすく、また定住しやすいような、そんなようなものをこれからも考えていきたいというふうに考えております。